『想いを声に！！』　届けましょう

「第 24 回重症心身障害児(者)を守る東北ブロック大会・研修会(岩手大会)」

９月 29 日(金)～30 日(土)岩手県花巻市鉛温泉「結びの宿 愛燐館」において開催されました。

参加者は、会員・関係者を含め約 140 名(内 12 名は ZOOM を利用した Web 参加)、新型コロナウィルスの影響により 3 年間のブランクがあり、これまでの参加者からすると少なくなっていました。

基調講演は釜石病院土肥守院長先生、勤務されてからの 20 年間の歩みと入所者の療育について、職員と時間をかけ何度も個別対応の会議を開催し、医療・看護・介護・保育の計画、共有、評価をしてきた事等の話がされました。

また、脳神経が専門の医師の立場から「脳に重い障害があっても人生は楽しめる」とアドバイスがあり、参加者の多くが物忘れを自覚するようになった年代の方々でしたが“まだ人生は楽しめる”と明るくなれたことでしょう。

中央情勢報告は、「児者一貫制度の過去、現在、未来」と題しビデオ放映を交えての講演でした。ビデオの中で、社会福祉法人常務理事国立秩父学園親の会元会長・茶園光彦氏が、児者一貫「制度」の法的担保についてと題し話された内容は、重症心身障害児者特に判断能力に欠ける人たちには児者一貫制度が必要であること、こども家庭庁の発足により障害児支援は同庁に移り、成人の障害者支援は厚生労働省に残り児者一貫が危ぶまれることから「法律は変更できるものです。世論の支持を失わないよう守る会は、今後とも社会の共感を得られる活動を継続していかなければなりません。」と訴えられていました。

法人守る会理事の長井浩康氏が「児者一貫制度は“みなし”であり今後も守られて行くのか？今は首の皮一枚で繋がっている。この制度を維持していくには守る会として、活動をしていかなければならない！」と話されたことは参加していた会員に改めて守る会活動の重要性を自覚させることとなりました。

夕食を交えての懇親会は楽しい演出・飛び入りでのアカペラ応援歌と、盛り上がりました。来年は仙台市において宮城大会が開催されます。是非たくさんの方が参加されますようお願いします。

編集後記

今回の広報「～絆～」はコロナが５類へと移行したことで、重症心身障害児(者)を守る全国大会（詳しい資料は両親の集いにも掲載されています）、東北ブロック/岩手大会の内容を紹介することが出来ました。

守る会は「最も弱いものをひとりももれなく守る」の基本理念のもと、施設にあっても在宅にあっても、重症児者がかけがえのない人生を豊かに生きられるよう、会員の声を集約し関係機関(内閣府、厚生労働省、文部科学省、日本重症心身障害福祉協会、国立病院機構本部)に要望書を提出し運動を続けています。

今年の全国大会では、基調講演後開催された国立施設部会分科会においては、参加者がパネリストの方に質問事項を用紙に記入回答をいただきました。今年は４年ぶりの開催だったこともあり、質問が約 30 枚集り、丁寧に返答されたので１時間ほど費やしました。

東北ブロック大会では「コロナ禍における親の想い」のテーマから参加者が、面会・療育・将来のことについて発言をし、助言者から返答を頂きました。活発に意見交換され東北各県の状況・親の想い等様々な事を知る事ができました。これも直接会場を訪れなければ体験できないことです。

来年の東北ブロック大会は７月7日・８日（仙台市）、全国大会は9月 28 日・29 日（東京）です。大会に参加して声を届けましょう。　【室】

絆～きずな～

2023 年 11 月６日　第 21 号
発行責任者：会長　牧野和江
福島県重症心身障害児(者)を守る会
いわき市江畑町小能田 40-2(富岡方) TEL:0246-63-3431

【守る全国大会】

４年ぶりの開催となる広島での全国大会。旧知の方々との久しぶりの再会を楽しみにしていました。

開催前日から翌未明にかけて台風 13 号の接近により前線が刺激され、茨城県北部から福島県南部に発生した線状降水帯の影響で同地域に甚大な災害が発生しました。

本部事務局から、参加申込締切日１週間前に、参加者が少ないのでもう一度声掛けをとの要請がブロック事務局を通じメールで寄せられていたこともあり、何としても参加をとの思いから、ひとりの方は乗車予定の駅まで行ったそうですが、結局、JR 常磐線の一部区間が終日運休となり、他の交通手段が確保できないことから参加を諦めざるを得ませんでした。

全国大会への参加者は、当初予定の 1000 名には届きませんでしたが、700 名近くの参加がありました。

実りの季節に想うこと

福島県重症心身障害児(者)を守る会
会 長　牧 野 和 江

日ごと夜の時間が長くなり、落ち着いて自分と向き合う最適な季節。それぞれの想いが巡る秋。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウィルスの世界的流行により３年の長期間開催中止を余儀なくされていた、重症心身障害児(者)を守る全国大会が広島県で、同じく東北ブロック大会が岩手県に於いて開催されました。

全国大会では、子ども家庭庁の方が、新しく作ったロゴマークには“すこやかな気持ちで、みんなで守っていく、こどもを真ん中に進めていく”との願いが込められており、“こども”の●●は“見守る”目の㊙であると説明されていました。

こどもまんなか
こども家庭庁

そのロゴマークに込められた願いのとおり、守る会の子どもたちも、社会全体で守ってもらえますように･･･と願ってやみません。

全国大会の分科会では、母親部会に参加しました。

「守る会」の歴史は何度もなんども繰り返し語り継がなければいけない。なぜ母親の想いが原点なのか、なぜ母親部会が必要なのか、ということを今一度それぞれに考えて欲しいと小山会長代行からお話がありました。

東北ブロック大会では、子どもたちの笑顔がずっと続くようオール東北でまとまっていこう!!と心を一つにすることが出来ました。

二つの大会へ参加し、それぞれの想い、おかれている状況、役割など直接感じる熱い気持ちに触れ、改めて対面による情報交換がいかに必要であるかを肌で感じとりました。

2023 年、G7 サミットが開催された同じ年同じ地域での全国大会は何か深い意味があるように思います。

世界の平和の尊さを学び、平和であるからこそ「守る会」も安心して活動ができると改めて強く感じました。

北浦会長の“母親の想い”を後世に繋げて行かなければいけない…と心に誓う実りの大きい秋となりました。

「北浦雅子会長お別れの会」

令和５年６月25日(日)10時30分から全国社会福祉協議会・灘尾ホールに於いて「北浦雅子会長お別れの会」が執り行われました。

当日は会場周辺に案内担当の方がおり、会場建物まで誘導してくださいました。

会場ホール入り口には次男尚さん、会場後方には北浦会長の映像と展示コーナーがありました。

参列者は約150名、静寂の中お別れの会が始まりました。

弔辞は、参議院議員、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部長、守る会小山会長代行ほか５名の方からありました。

特に印象に残ったのは北浦会長が昼夜問わず、相談事・困りごとに対応していた事、会合や面談には体調がすぐれない時も他に用事があろうとも何より“守る会会長”としての責務を優先されていた事です。「会って、お話すれば解決策が見つかるはずだから･･･」と、会いに行かれていたことです。

”障害者のため”のひたむきな活動その中には強さもあり、遠くから来訪の方にはお弁当を手配し優しく相談に耳を傾けてくださっていた事が知れた時間でした。

参列者それぞれのお別れは、献花の白いカーネーションを一輪ずつ渡され、祭壇へたむけお別れのあいさつをしました。福島県守る会からは３名が参列、一緒にならんでの献花でした。（白いカーネーションの花言葉は、「私の愛情は生きている」や「尊敬」です。アメリカで始まった母の日のシンボルとされる花で、亡くなった母親を偲ぶ色です。）

会場入口付近では献花を済まされた方々がいたる所で歓談されていました。

福島県守る会からの参列者は、東北ブロックで顔見知りの方々と、北浦会長の思い出話やそれぞれの近況報告等を語り合い、故人を偲ぶひと時となりました。

展示コーナーは、表彰状の他にメダル・衣装等の他、参列者献花時に北浦雅子会長の映像のビデオ放映が流されました。

「北浦雅子会長　お別れの会」実行委員会・各都道府県支部長の方々、会場準備から案内誘導さらに受付、後か片付け等ありがとうございました。

～守る会全国大会・広島～「９月９日(土)～10日(日)」

室井　貴子

私達は、郡山駅から広島駅まで５時間以上かけて新幹線で現地へ行く予定でした。９月７日からの豪雨（台風13号が関東地方へ接近した影響により前線が刺激され）の為、交通機関は乱れ、運休になるかもしれないと心配しましたが大会前日の移動は、無事に現地入りすることができました。

今年４年ぶりに開催された大会会場は、G7広島サミット開催時に、アメリカのバイデン大統領と岸田首相による日米首脳会談をはじめ、多くの会談が開催され世界的に有名になったリーガロイヤルホテル広島です。

まず、”障害児支援政策の動向”と題し行政説明を◆栗原正明氏（こども家庭庁支援局　障害児支援課　課長）よりお聞きしました。※詳しい内容については、両親の集い第761号(2023.7・8)をご覧下さい。現状は、こども家庭庁と障害児支援の関わりも含め３年間で支援体制を整えている。今年度は３年目なので、報告しなければならないと共に来年度以降の体制作りを進めているし、検討しているとのこと。来年から一勢に動き出す方向で進行中とのことでしたので期待して待ちたいと思いました。

休憩後、私は〔第１分科会〕（国立施設部会）これからの入所支援の在り方として、◆後藤一也氏（国立重症心身障害協議会　会長　西別府病院）◆廣瀬喜章氏（国立病院機構本部　医療部医療課　医療企画専門職）の２人の方からお聞きしました。

私が特に報告したい事は、「コロナ禍の中こうすれば良かったは、振りかえれば言えるが国立病院の医師は、その時に１番良いと思う方法で面会対応・入所者への対応をしていた」です。面会の際には、感謝の言葉を伝えたいと思います。

翌日10日は、基調講演「生きるとは何か」「人生の幸せとは何か」―ヒサ坊に生きた北浦雅子の生涯―と題し、◆福田雅文氏（みさかえの園総合発達医療福祉センター　むつみの家　施設長）からお話をお聞きしました。出会いから時系列に話されて、ご家族の協力はもちろんですが、北浦雅子会長の御主人が守る会の三原則を作る際に、お二人で相談され熟考を夜遅くまでされ話し合いの後決められたとのエピソードが心に残りました。

２日目の式典の中で、来年は守る会60周年の記念大会にあたり、開催地は東京ですと発表されました。是非、参加されることをお勧め致します。現地でしか聞けない話・情報がありますので、私は来年も参加したいと思いました。

最後に移動は大変でしたけど、窓越しに見る車窓からの富士山はとてもおおきかったです。そして、広島県は観光でゆっくりめぐりたいと思わせてくれる街でした。